

色の見え方のいろいろ ～色覚異常について～

○そもそも色覚って何？見え方の違いって？



色を感じとり見分ける力を「色覚」といいます。同じ匂いをかいで、よい香りに感じる人ときつい匂いに感じる人がいるように、色の見え方も人それぞれ違うといわれています。人はお互いに他の人の色覚を感じ取ることはできないので、例えば同じ「赤いりんご」を見ても、本当にまったく同じ赤色に見えるか、証明することができないのです。ですが、このことは特に問題ではありません。それぞれが感じている「赤」がどんな色でも、色と色の違いを見分けることができているならば、あまり困ることはないからです。

しかし中には、生まれつき色を感じる目の細胞が少ない人がいて、他の多くの人とは色の見え方が異なるために、色の違いを見分けにくいことがあります。これを「先天性色覚異常」といいます。

○色覚異常の症状は？



赤系統や緑系統の色を見分けるのが難しい人が多いとされています。色の判別が難しいだけで、視力には影響ありません。全く色がわからない（すべて白黒に見える）という人はまれですが、色鉛筆やクレヨンの色を区別しにくい、緑の黒板に書かれた赤いチョークの文字が見つらい、肉の焼け具合がわからないなど、具体的な内容は人によって様々です。日常生活には特に支障がないという人も多いため、「色覚多様性」と呼ばれることもあります。

○治療法は？



現在のところ、色覚異常の治療法はありません。自分の見え方や間違えやすい色などを理解しておくことが大切です。見え方を補正する眼鏡があります。

○どのくらいの割合でいるの？



志木小の人数で考えると
20人くらいの割合です。

男子の約5%（20人に1人）、女子の約0.2%（500人に1人）の割合で見られます。日本全体では、約290万人いるといわれています。

○なぜ色覚検査をするの？



色を見間違えて周囲から誤解を受けることや、色を使った授業の一部が理解しにくいことが考えられるため、程度によっては学校生活での配慮が望まれます。また、色を見分ける必要がある職業やその専門学校などでは、就業や入学を制限される場合があります。

本人には自覚のない場合が多く、検査を受けるまでは保護者の方でも気付いていない場合が少なくないため、色覚検査で色の見え方を把握しておくことは大切なのです。



色の見え方に関するこんなアプリがあります！

◇色のシミュレータ（App Store、Google Play）

様々な色覚特性のある人たちがどんな風に見えるのか、画面を通してシミュレーションできる無料アプリです。一般的な色覚の人には理解しにくい「見分けにくさ」を体験することができます。



◇色彩ヘルパー（App Store）

カメラで見ているものや保存された画像の色の名前を教えてくれる無料アプリです。教えてくれるのはJIS規格で定められた色名なので、色を正確に伝えることができます。色の名前の勉強にもなります。